

◆雪害対策と農作業事故防止

冬本番！本格的に雪の降る季節となりました。果樹や雨よけ施設を雪害から守るため、雪害対策を実施しましょう。

また、園地や施設の除雪作業を行う際は、施設が倒壊する恐れがないか、作業する足元に危険はないか、落雪の恐れはないか、十分に安全確認を行い事故防止に努めましょう！

・積雪時の対策

降雪が続いた場合や大雪の際には、できるだけ速やかに樹や施設の雪下ろしを行いましょう。樹では太い枝や分岐部、ハウスや雨よけ施設では雨樋やパイプの交差部の積雪に注意しましょう。

雪の沈降力¹が最大になる時期は、最大積雪深の約 1 / 3 になった頃とされており、枝折れを防ぐため、埋もれた枝は、雪の沈降が始まる前に枝を掘り上げましょう。枝の掘り上げが困難な場合は、枝の周りに溝をつくるように雪を掘り（溝掘り）、雪の沈降力を弱めましょう。枝下の雪を踏み込むと、沈降力をある程度弱める効果があります。（図 1）

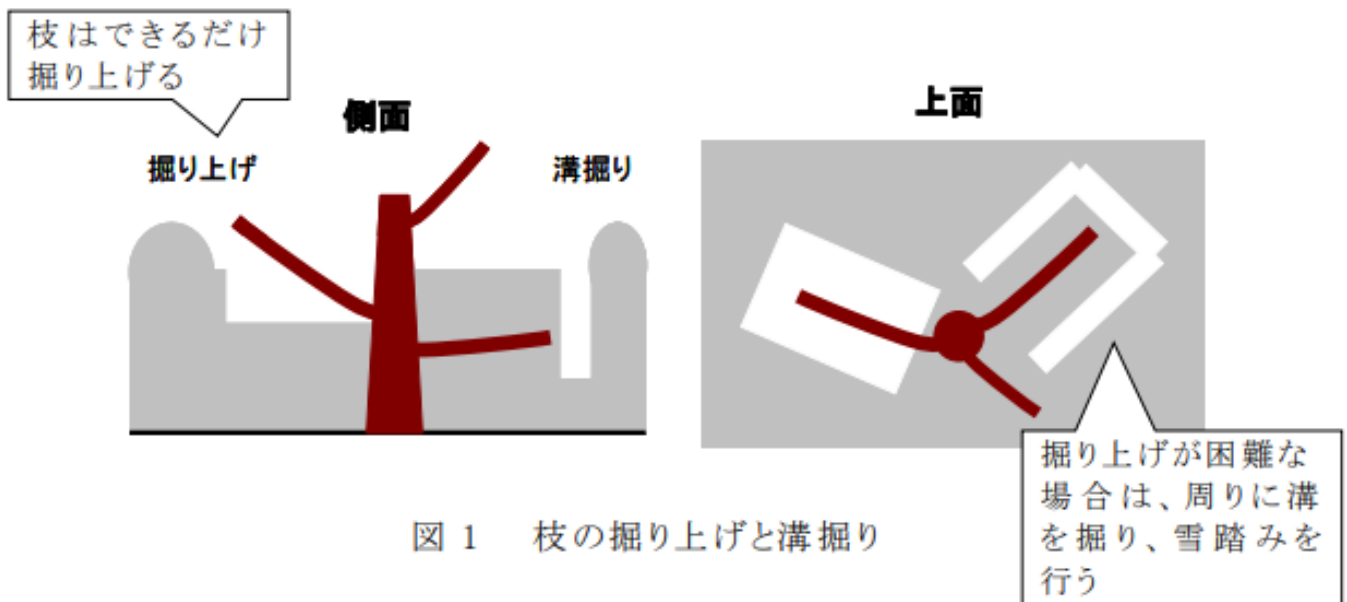


図 1 枝の掘り上げと溝掘り

¹ 雪が解けて沈み込む際に、その内部に埋まっている物体などに加わる力のこと。

・事後対策（果樹）

いずれの樹種でも、枝折れの被害が大きい程、生育期の樹勢が強くなりすぎる傾向があります。樹勢が強くなると、果実は大きくなる半面、生理落果や核割れの発生、地色の抜けや着色の遅れ、糖度の低下を招く恐れがあります。少しでも果実品質を上げ、収量を確保するために、枝折れは可能な限り修復しましょう。

主枝などの大枝が裂けた場合は、できるだけ引き上げ、ボルトやカスガイなどで固定し、修復しましょう。固定した後は、再び枝が折れないよう支柱やワイヤー、ロープなどで補強しましょう。引き上げ・修復が困難な枝は切り落とし、切り口に癒合剤を塗布しましょう。

なお、大枝を切った樹では、反発により樹勢が強くなりやすいので、剪定作業で枝の量を多めに残すなど配慮しましょう。

樹が倒伏した場合でも、生産可能な場合が多いので、立て直して利用しましょう。根の損傷が大きい場合は、樹勢を維持、回復させるため、強めの剪定で枝の量を減らしましょう。

・事後対策（施設）

修復可能なパイプハウスは、資材を交換するなどして修復しましょう。修復が難しい場合は、資材を撤去しましょう。撤去作業に当たっては、変形したパイプの跳ね返りなどで怪我しないように十分注意しましょう。

▶ 冬期農作業事故防止のポイント ▶

- ✓ 雨よけ施設や作業小屋の雪下ろしを行う場合は、滑りにくい長靴、ヘルメットや命綱を着用する。
- ✓ 除雪機は、周囲の障害物の位置を十分確認したうえで慎重に操作し、雪が詰まるなどのトラブルが発生した場合は、必ずエンジンを止めてから対処する。
- ✓ 脚立はチェーンをかけて使用し、最上段には登らない。
- ✓ 作業は事故に備えなるべく複数人で行い、互いに安全を確認しあう。